

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800185		
法人名	有限会社 あい		
事業所名	グループホーム大道		
所在地	山鹿市方保田828-2		
自己評価作成日	平成29年3月7日	評価結果市町村受理日	平成29年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成29年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念を基盤に作成したグループホーム大道の理念である「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」がスタッフ一人ひとりのケアの基礎になっています。
 利用者の意思を必ず確認し、思いや考えをしっかりと引き出し、その方らしく暮らすためのお手伝いをしています。
 人生の終盤での出会いを大切に利用者、ご家族が「大道で良かった」と思ってもらえるホームを目指します。
 6年目を迎える当ホームが地域にとって「なくてはならない存在」になれるよう、地域のために私たちに何ができるかをしっかりと見極め提案し共に盛り上げ支え合う関係を築いていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* 法人の定めた理念「であい・ふれあい・支えあい・慈しみあい」を基本に、ホームの理念を「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」と定め、日々のケアの原点としている。理念は、更に「ご利用者へ」「ご家族へ」「地域の方々へ」「自分達へ」として考えをまとめ、認知症の方々と共に地域の中で安心して暮らせるホームづくりを目指している。利用者一人ひとりがその人らしく、その人が歩んできた道を大切に、「待つケア」を心掛けた支援に努めている。
 * 地域の多様な立場の方々で構成された運営推進会議では、ホームに関する議題のみならず、「地域にとって何が必要か、ホームに出来ること」等についても話し合っており、地域の一員としての役割・貢献を常に考えるホームの姿勢が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を踏まえ開設の時にスタッフで作成した。 日々のケアの基本となっている。定期的に見直しをする機会を設けることで日々の振り返りやスタッフ間の意識の統一の基盤になっている。	法人の定めた理念「であい・ふれあい・支えあい・慈しみあい」を基本に、ホームの理念を「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」と定め、日々のケアの原点としている。理念を定期的に見直し、より実態に沿った対応、ニーズあった支援を大切に、その人らしく生活し続けられるホームでの暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設より今までは「地域に知って頂く」ことを大切にイベントを意識して実践してきた為祭りは地域の恒例行事となっている。今後は「なくてはならない存在」として防災等の地域活動を充実していく予定	ホーム主催の「秋祭り」は、行政や地域、運営推進会議委員の方々の協力を得て実施している。「秋祭り」の広報の仕方・プログラムの内容・事前準備について等、運営推進会議等で率直に話し合っており、祭りが地域のイベントとして浸透していることが伺えた。また、「地域にとって何が必要か、ホームが出来ること」等、地域の人々と話し合い、地域の一員としての役割・貢献を常に考えるホームの姿勢が見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な講義や啓発活動は実施していないが、実際に各行事や予防拠点事業において交流の場を持つことで認知症を知る機会になっていると感じる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者も参加している。活動状況の報告や実際にホームの敬老会に参加して頂き場の雰囲気や利用者、ご家族の直接の声を聞いてもらう機会になっている	運営推進会議は、区長・世話人・福祉協力員・認知症サポートリーダー、山鹿市役所・警察・消防団、利用者・家族など、多くの方々の参加を得て話し合いが行われている。ホームから活動報告・利用状況・職員研修・事故報告等、ホームでの暮らしや職員の活動について分かりやすく伝えている。また、「秋祭り」や「敬老のお祝い会」等、イベントの開催後は参加者で振り返り、良かった点・改善点等を話しあい次回に繋げる機会としている。会議は、ホームを中心に、参加者全員で地域の人々の暮らしも考える場となっていることが会議議事録から読み取ることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加はもちろん、行事等にもボランティアとして協力いただいている	市関係者は、運営推進会議に毎回出席している他、多くの施設行事にも参加しており、交流する機会も多く、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に会社の方針として「身体拘束はしない」ことで統一している。利用者に対する何気ない言葉や行動が拘束に至っていないか考え利用者の自由な生活の支援を心がけている	認知症介護基礎講座研修に参加したり、毎月合同勉強会も重ね、「身体拘束はしない」ケアの徹底に努めている。筋力の衰えや、行事参加後の疲れによる転倒事故等が発生した際は、職員で検討し、見守るスタッフの連携を強化したり、夜は常夜灯で明るくするなど、事故の未然防止に工夫しながら、利用者のプライドを大切に安心で自由な暮らしの確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会への全スタッフの参加は出来ていないが、スタッフ間のコミュニケーションを図り、ゆとりをもってケアが出来る様チームケアに心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の機会が不十分であり個々の必要性や活用に至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用が決まるまでに、しっかりとホームの考えや特色等を理解して頂き答えを出している。 入所が決定してからも必ず事前に面会の場を設け不安や疑問等を確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は震災の影響で家族合同の会議は開催できなかったが、行事や面会時に要望等を確認している。 全利用者ではないが、病院受診時に同席することでご家族の希望や心配等を確認する機会になっていると感じる。	運営推進会議には、利用者と家族も参加しており、イベント等の感想など、思いや意見が言い易い雰囲気をつくり、会議進行に配慮されている。また、職員も、家族の面会時や行事参加の際に、出来るだけ意見等が言い易い雰囲気を大切にしている。今年度は「クリスマス＆忘年会」の際に、家族も一緒に居室の掃除をしてもらい、利用者・家族・職員とのコミュニケーションの機会を多くもつことで、利用者・家族の意見の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体会議を開催し職員の意見や提案を確認している。全体会議も各職員主導にて実施をしていく方法に変更し、各職員の思いや考えを引き出せるような会議になっていると感じる	職員は、ケアの現状に満足することなく、介護の質の向上に向けた話し合いを重ね、全体会議では、「グループホームに何ができるか」等も協議している。管理者は、日頃から職員の声を聞くことを心掛け、提案等は前向きに検討し、必要な際は本部運営会議で検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心に気付きの報告を受け必要があれば面談などを行うことや会議等での職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修は月に1回の開催を実現できている。今年度は喀痰吸引研修や実践者研修、基礎研修とスタッフの意向や勤務状況に応じて研修参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士のつながりも多く各イベントの際はお互いの事業所のボランティアとして協力できる体制づくりができています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人、ご家族、関係機関と面会や面談を行い情報収集を行っている。また、担当になるスタッフも本人やご家族と面会を行い、本人と顔見知りにならなくても近づける様に努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向の把握、思いを受け止めスタッフ間でも共有する様に努力している。上記と同様に家族と面談する機会を持つようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームへの相談の際にはしっかりと話し実際にホーム入居に至らなかったケースも多々ある ご家族へ認知症についての説明をすることも度々ある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族も含めそれぞれの役割を大切にしている。利用者の性格や年齢、これまでの暮らしも配慮し持ちつ持たれつの関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	上記と同様に利用者にとっての家族の存在の大きさ、本人にとって大きな支えであることは伝え続けている。ご家族が後悔しないように配慮しその方のペースに応じた関わり方の支援を依頼している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所への外出は本人の認知症の進行や体力的な問題もあり徐々に減ってきているが、ご家族の協力の元定期的に実家に帰る機会をもっている利用者もいる	入所時に本人や家族から馴染みの人や場との関係等の情報を得て、関係継続の支援を行っている。しかし、体力の低下等の課題もあり、好きな寿司を受診の帰りに食べる等、望みを叶える楽しみの支援を大切にしている。また、家族との連携も大切に、共に支え合う支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、それぞれの性格やその時に状況に合わせてさりげなくフォローしている。利用者同士、お互いを気遣う声かけや会話が増えてきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられてサービスが終了した利用者のお墓参りや回忌のお参り、イベントの案内やメールやはがきでのやり取りなど関係性を大切にしている退所された利用者の家族からの相談もある。現ケアマネと連携している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは、本人に思いや考えを聞く習慣を持つことを大切にしている。また、生活の中で会話や表情やしぐさ、で思いや考えを察し意向の把握に努めている。	起床後、お天気に誘われて「出かけたい」との声が聞かれた際は、できるだけその望みに沿う支援を大切に、ケアに励んでいる。言葉での要望が出にくい入所者には、表情や仕草等に気を付けながら、本人の思いや考えを汲み取り、寄り添うケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの情報収集を大切に共有している。 入所後も継続して会話からの新たな情報等は記録に残し共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時には「出来ること・できないこと・わかること・わからないこと」のシートを活用し利用者の状態の把握に努めている。日常での変化や気付きは記録に残している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録やご家族来所時に要望や情報収集を行いケアを計画している。会議時や日常においてスタッフのケアに対する疑問は不安、気付きは確認するように心掛けている。定期的なカンファレンスは今後の課題であると言える	日々の覚書・経過記録等を参考に利用者の状況を把握し、本人と家族の意見を取り入れ、本人本位のケアプランを作成している。介護計画の見直しは3ヶ月ごとに実施し、入院等変化があった場合はその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録する際には出来るだけスタッフの主観は入れず、本人の言葉や表情を大切に記録に残すようにしている。 記録からの情報収集は各自徹底している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り既存のサービスにとらわれず、ニーズがあがったら協力するように心掛けている。ターミナルの利用者の外出支援などは訪問看護と連携して実現した。 近隣の独居の方とのつながりの継続などを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本を読むことを好む利用者とは一緒に図書館へ出かけたり、選挙や、希望する理容室等へ出かけている(移動図書としてきて下さることになった)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前の主治医の継続を行っている。入居時にはその旨の報告とあいさつへ伺い連携に努めている。また、ターミナルになった時には往診のできるDrを探すこともある。受診時は家族が不安な時には同行することも多い	入所時まで利用していたかかりつけ医との継続性を大切に、希望に沿った支援をしている。定期的な受診は家族による同行を基本としている。職員が同行しない場合や、内服薬に変更があった際等、必要と思われる際は入所者の状態・状況等を詳細に記録した情報提供書を作成し、看護師や医療連携室に事前に知らせることで、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/wの健康チェック時にはその日のリーダーが経過を報告し確認後は各利用者の状態や気付きを頂いている。日常から確認や相談を行い指示をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーをお渡しすることに併せて実際の日常における注意点等を直接話に乗っている。また、必ず退院時の調整等の連携を担当して頂く方を確認し定期的に経過の確認や退院時の調整をお願いしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的にご家族および本人と終末期における事前協議書を用いて確認をしている(今年度は出来ていない利用者が多い) 他利用者の看取りの際に各利用者はあいさつをしたりすることで日常的に本人との会話をすることや希望を伝えること	本人や家族の希望に沿って、これまでターミナルケアへ対応した経験を複数例持っている。医療機関で余命2週間と告知された利用者が、医師や訪問看護師との連携や、ホームでの日常的で温かいケアの環境の中で2年間の暮らしを続けることができた例もある。重度化した入所者の終末期を支援できたことは、職員にとって大きな経験・学びとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで実践しているが、実際にすべての職員がその時に行動できるかは難しいため今後の課題ともいえる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的実施できており、近隣の消防団とも連携をとれる体制にはなっているが、そのほかの災害についての計画はこれから整えていく予定である	火災訓練は、消防署の立ち合いの下、年2回実施している。備蓄に関しては、4日間分の食糧等が準備されており、緊急事態の場合は、近隣住人との連携体制も出来ている。自営業で消防団員でもある隣人の協力が心強い存在となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定を促しながら接することを大切にしている。理念に沿ってケアをする中で定期的に振り返る機会を持つようにしている	入所の際に、呼称については本人・家族と話し合いを行い、本人の心地よさを大切に呼び名を決めている。居室は、プライベート空間として意識し、職員が入室する時は、必ず許可を得ることを心掛けている。本人のプライドを大切に自己決定を促し「待つケア」を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を必ず確認すること徹底している。会話や表情、しぐさから希望や思いを引き出せるような働きかけをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションをしっかりと図り、その日何をしたいか、何を希望されているかをしっかりと耳を傾け、利用者の「その時」を大切にできるようにしている。待つ頂く際は必ず理由を伝えてることを心がける		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好きな色や好きな服、こだわりを把握し尊重できるように支援している。本人と共に買い物にでかけ、一緒に選ぶこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好物や苦手な物、の把握をし苦手な物のメニューの際には別メニューを準備している。食器拭きや下ごしらえ、配膳、盛り付け等利用者の能力に応じて依頼している	主食はご飯・麺類、副菜は魚・肉・季節の野菜等多種類の食材を使用し、献立も偏らないよう工夫し、家庭的でバランス良い食事が提供されている。行事の際の手作り松花堂弁当や誕生会のケーキなど、食事やおやつを楽しむ支援が心掛けられている。利用者に食器洗いや、大根おろしの手伝い等を依頼し、出来ることの支援に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態が不安定な方は水分インアウトチェックを実施している。食事の量は毎食確認し食事の入りが悪い方へは好物や栄養補助食品で捕食している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の同意を得てケアをしている。本人の口腔状態に合わせて用具を準備している。自立度の高い方の口腔ケアの徹底が難しい		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツの方でも日中は排泄パターンのチェックを行うことに併せ利用者の表情や言動、しぐさからトイレ誘導のタイミングを図りトイレ誘導を行っている	一人ひとりの水分量チェックや、排泄パターンを把握し、職員間で共有している。一人ひとりの表情や仕草を見守り、様子によって声掛け・誘導を行い、気持ち良い排泄への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に手作りヨーグルトやホットミルクを提供している。ホットパックの活用や腹部マッサージなど必要に応じて支援している。排便コントロールの方法の個人によって違いがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の有無や時間について事前に本人と相談して決めている。難しい利用者は無理強いせず本人の気持ちに併せて実施している。以前はなじみの温泉へ出かけることもあったが現在はADL面で難しく希望がない	それぞれの希望に沿った時間帯で、在宅時での習慣にも配慮した入浴支援に努めている。入浴に気が進まない時は、気の合うスタッフと話しながらタオルの準備をする等、本人の気持ちを大切に、無理の無い支援に配慮している。	以前温泉に出かけたような気分がホームでも味わえるような工夫があると、更に楽しい入浴支援になるかと思われた。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や消灯時間は個人の生活リズムを大切にしているためバラバラである。灯りの強さ、温度、湿度は確認して必要があれば加湿器、湯たんぽ、玄米ホットパック等も活用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事表をファイルいつでも確認できるようにしている。服薬支援はスタッフ間でのダブルチェックに併せて服用前に本人と一緒に「日付、名前、いつの内服か」を声を出し確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事などでの挨拶などは利用者の中でも役割分担を決めている。また、タバコやお酒は特に禁止にはしていない。その日の気分で散歩に出る際も付き添いおよび見守りなど、本人に合わせた対応をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと年末年始の外泊は勧めていたが、状態の変化により外出のみに変わってきつつある。花見や日帰り旅行等の行先は利用者からの意見を尊重して決めている。	日常的に、近所への散歩や買い物・図書館等へ出かけたり、個別の希望に沿って自宅や自分の生まれた実家に出向く等の支援を行っている。また、家族や友人と食事に行ったり、季節の花見や時にはドライブに出かけるなど、外出の機会の確保に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者はある程度の管理能力があるため実際に本人管理している。そのほかの利用者は買い物に出ることはあるが、自己精算は難しくスタッフやご家族管理になっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物のお礼のハガキを書いたり電話を掛けたりする支援を行う。年賀状は定例になっていたが、少しずつスタッフの支援量が増えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフは常に音や光、温度、湿度など気を配っている。季節の花を飾ったりすることも多い。玄関には亡くなられた利用者姉妹の大切にされていた鉢植えや亡くなった利用者の形見である蘭を大切に育てている	採光や室温に配慮し、季節の花が飾られており、心地よく、ゆったりとくつろげる空間となっている。移動図書館から借りた本を静かに読んだり、昼食をスタッフと会話しながらゆっくり食べている入所者の様子等から、それぞれが自由で、居心地良く過ごせる環境への配慮が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広縁やウッドデッキ、畳の部屋など利用者が思い思いに過ごせる空間が確保されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具やお気に入りの物を配置している利用者もいるが、そうでない利用者もいる	居室の入口に掛けられた表札は、本人・家族と職員が共に手作りしたもので、温かみを感じられた。部屋には、仏壇や家具・写真等、自宅から持参した思いのある物が配置されており、馴染みの物によって利用者の安心感が得られているように感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりにあった支援の支援の方法で介助や見守りを行っている		